



7/16交通安全少年団

一燈照隅

その立場立場でなくてはならぬ人になる

発行
平戸市立平戸小学校
文責 校長 永田健治

児童数 323名
教職員数 35名

創立151周年



発行：平戸市立平戸小学校 〒859-5121 平戸市岩の上町1509番地 TEL：0950-22-9230
E-mail：hirado-es@hirado.ed.jp ホームページ：「平戸市立平戸小学校」で検索



明日から夏休み！

今年は44日間

思い出に残る夏休みに



明日から平年より2日長い44日間の夏休みが始まります。

夏休みにしかできない体験や学びを通して、子供たちが心身共に大きく成長する姿を楽しみにしています。

中学生が職場体験

7月2日（水）～5日（金）の3日間、平戸中学校の生徒2名が職場体験にやってきました。一年生の教室に入り、プリントの丸付けや学習中悩んでいる子供の支援を行いました。二人とも真面目で熱心な働きで学校としても大変助かりました。「また、平戸小学校の子供たちと会えたらいいな」と思っています。（眞浦）



戦没者追悼式

7月9日（水）平戸市戦没者追悼式が行われ、本校の6年生が参加しました。児童代表が献花と献水を行った後、「平和への誓い」では、全員で平和を願うメッセージを発表し、ビリーブを歌いました。今年は、終戦から80年の節目を迎えます。子供たちと一緒に思い出を

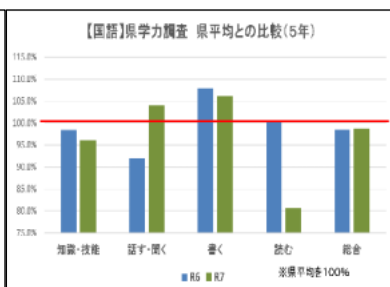
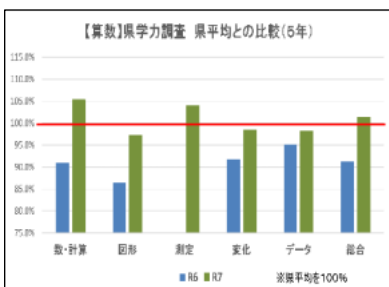


い一つにして平和について考えるよい機会となりました。

県学力調査の結果

4月17日（木）に実施した県学力調査の結果をお知らせします。

赤い線が県平均です。国語は県登場人物の気持ちの読み取り、算数は、複合図形の面積の求め方に課題がありました。結果を精査し、授業改善を行います。



通知表の見方

【学習の様子】は目標に準拠した評価、いわゆる絶対評価を取り入れています。

昭和から平成初期頃までは、絶対評価が主流でしたので、学級集団の中で「◎」「○」「△」の人数の割合があらかじめ決められていました。また、属する学級集団のレベルによって個人の評価が大きく変わってしまい、個人の成長をみるのが難しい評価方法でした。これらの反省から、現在の通知表では、絶対評価を取り入れられています。

絶対評価とは、学級集団の中での相対的な位置づけとは関係なく、児童一人一人の学習状況を、学習指導要領に示す目標に照らし、達成度で評価します。「◎」十分達成していると判断されるもの（90%以上）、「○」概ね達成していると判

断されるもの（90%未満～70%）、「△」（70%未満）の三段階で評価したものです。

各評価の人数は決まっています。90%以上達成していれば、人数に関係なく「◎」の評価となります。絶対評価では、子供の個々の能力や成長を重視し、公平な評価を行うことが目的とされています。【生活の様子】は各項目の目標と照らし合わせ、子供の様子について観察による個人内評価を取り入れています。個人内評価とは、他者との比較ではなく、子供ごとのよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価します。「◎」「○」「△」で行いますが、あくまでも個人内評価ということで、一学期は、その子のなかで「特によい」の「◎」は多くても4個から5個くらいにしています。二学期からは意欲を高めていくために、「◎」の上限を増やしていく予定です。

不登校について考える

不登校児童生徒数は、令和5年度、全国で34万人を超え小学校では47人に1人の割合となり、社会問題化しています。

不登校問題について、元学校心理士の海野和夫氏は、著書「不登校を克服する」の中で次のように述べています。「不登校問題は、子供たちの未来の格差を拡げている。」

よく遊びよく学び自己実現に邁進している子供たちと、不登校や引き籠もりに陥っている子供たちとの人生の在り方の格差は著しい。格差は、学歴、資格、職業、収入、社会参加の内容等に表れる。

授業を受けていない期間が長いほど学力の格差は大きな要因の一つで、取り戻すには本人のかなりの努力を要する。

今の時代、中学校卒では、よほど卓越した

芸術的才能、秀でた運動能力、卓越したもの造りの技能、賢い商才がない限り、それなりの生計を立て生きがいのある人生を創ることはなかなか困難である。

近年は国の支援制度も整い始め、通信制単位制高校の道は拡充されてはいるものの、リモート授業では卒業率3割程度、対面授業では7割超という傾向が見られる。

学校は、学校が原因となる不登校を生み出さないようにしなければならない。教育の専門職としての当然の教育実践に取り組み、子供たちの自己実現に貢献しなければならない。」

(一部を要約)

平戸小学校

校では、不登校の未然防止に努めています。



学校が原因の学力不振、友人関係、苦手教科、

教師の言動など、原因がはっきりしている不登校が発生した場合は、事実確認を行い、解決に向けて迅速に対応いたします。ぜひご相談ください。

近年、不登校の理由には「眠いから」「気分が乗らない」「行きたくないから」「無気力状態」など、**原因がはっきりしないケースや、メディア依存傾向による昼夜逆転**などのケースが全国的に増えています。

子供の将来の責任者は子供の一番身近にいる保護者です。子供はまだ自分で判断できない物事が多く、保護者が導いてあげる必要があります。とはいえ、子供にどのような接し方したらよいのか、悩み苦しんでいる保護者もいます。

改善策として、専門家や関係機関に相談するのも方法の一つです。本校にもスクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー

(SSW)が配置されていますのでお問い合わせください。

結びに、国の支援制度により、学校の他にも学びの場所は整いつつあります。同時に「無理して学校にいかなくてよい」という社会的風潮もあります。もちろん、子供の命に関わる場合や緊急を要する場合などには、学校を休む選択肢も必要であると理解しています。

しかし、(現実的に未来の格差の問題もあり得ることから)学校教育に携わる者として、個人的には日々の学習の積み重ねにより基礎学力を身に付け、嫌なことがあったとしても、様々な他者と折り合いをつける経験をしながら、自立した社会人を育てることを目的とした学校に勝る場所はないと考えています。

社会問題となつてくる不登校の解決には、保護者、学校、関係機関がそれぞれの役割を

果たし、協力・連携することが必要不可欠と考えます。

スマホとの関係?



不登校児童数の増加の理由の一つとして、私は、スマートフォン、インターネット、携帯型ゲームの普及が大いに関係していると考えられています。

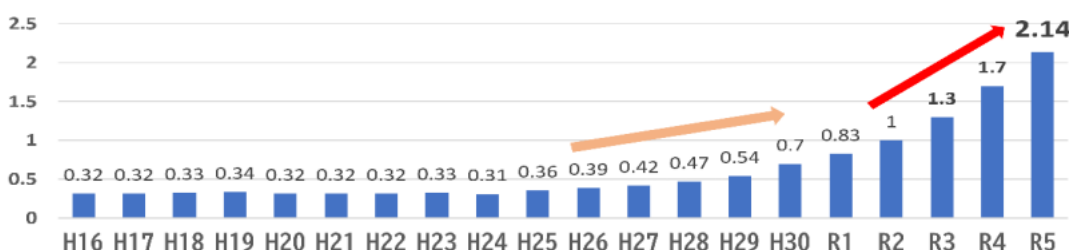
なぜなら、スマートフォンは平成23年ごろから急速に広がり、平成25年には一気に世帯普及率が6割(現在は9割)を超えました。これらの普及率、個人所有の割合の増加と不登校児童数の増加の傾向が重なります。

近年は低学年の不登校が増加していますが、これもスマホ、携帯型ゲーム機の個人所有の低年齢化と重なります。

スマートフォンやインターネット端末は生活に欠かせない便利なものですが、使い方によっては依存症や犯罪

100人あたりの不登校児童数(人)

文科省調査



に關わるデメリットもあります。低年齢から家庭で考えたルールを「守る」、「守らせる」という親子関係がとても大切だと考えます。